【第 13 回】銚子スポーツタウンコラム　日本シリーズを観て

ソフトバンクが４連勝で、２年連続の日本一となり、開幕から３試合連続の延長戦になるのは史上初でした。王者ソフトバンクに挑む横浜ベースターズ（以下ベースターズ）は、シーズン３位からクライマックスを勝ち抜いて、勢いに乗ってのシリーズ出場。しかし、ソフトバンクの戦いぶりを見ると、「経験値の差」がはっきりと出たのは、小久保監督はじめ選手達の落ち着きはそれを裏付けていました。短期決戦の特徴でもある１球の重みを感じさせられた試合も多く、ベースターズはこの敗戦を糧にして、来期の雪辱に期待しましょう。

私は日本シリーズを２度経験していますので、少し触れてみましょう。１９７０年（昭和４５年）濃人監督でもう５６年も前の事です。ロッテオリオンズ（現千葉ロッテマリーンズ）時代で、相手は５連覇中の最強敵の巨人でした。王、長嶋選手の全盛時代で相手にとって不足は有りません。私はプロ入り５年目の２３歳で、抑えから先発に転向した１年目２１勝してパリーグの MVP に選出された年でした。

開幕第一戦は巨人の後楽園球場（現東京ドーム）。大事な初戦に指名された私は今まで味わったことの無い責任感と緊張感、そして、マウンドに立てる幸せを感じたものでした。巨人の先発は同い年の堀内恒夫君。彼はすでに巨人のエースとして大活躍中です。お互い、ライバル意識も有って延長１１回まで０対０でした。当時の先発は完投することは当たり前で、特にエースともなるとなお更です。１１回裏、黒江選手にスライダーを左中間最前列にサヨナラホームランを打たれ悔しい敗戦で、結局、ロッテは１勝４敗の惨敗でしたこの悔しさを晴らす機会は４年後の１９７４年（昭和４９年）金田監督でした。セリーグは巨人と中日が最終戦までもつれ、勝った方が優勝。“巨人出てこい！”４年前の屈辱を晴らしたい思いでしたが、結局、中日が勝ち日本シリーズを戦ったのでした。

想い出の試合は第５戦に先発し、千葉県の成東高校出身の鈴木孝政君との投げ合いで、２対０で２安打完封勝利し、日本一に王手を掛けた一戦で、結果はロッテが４勝２敗で日本一に輝いたのでした。紙面の都合上これまでにしましょう。面白い話はまたの機会をお楽しみに！

